

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年9月30日(2010.9.30)

【公表番号】特表2010-515677(P2010-515677A)

【公表日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2010-019

【出願番号】特願2009-544800(P2009-544800)

【国際特許分類】

C 0 7 K	14/47	(2006.01)
A 6 1 K	38/04	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 P	9/10	(2006.01)
A 6 1 P	15/00	(2006.01)
C 0 7 K	16/00	(2006.01)

【F I】

C 0 7 K	14/47	Z N A
A 6 1 K	37/43	
A 6 1 P	3/10	
A 6 1 P	3/04	
A 6 1 P	9/10	1 0 3
A 6 1 P	15/00	
C 0 7 K	16/00	

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月6日(2010.8.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

一様態において、本発明は、インスリン分泌ペプチドと両末端に反応基を有する非ペプチド性重合体とが相互共有結合によって連結されている持続型インスリン分泌ペプチド結合体に関する。

本発明で使用されるインスリン分泌ペプチドは、インスリン分泌機能を保有したペプチドであって、臍臓ベータ細胞のインスリンの合成および発現を刺激する。このようなペプチドは、前駆物質(precursors)、アゴニスト(agonist)、誘導体(derivatives)、断片(fragments)および変異体(variants)を含み、好ましくはGLP(Glucagon like peptide)-1、エキセンディン3(exendin 3)およびエキセンディン4(exendin 4)である。

GLP-1は、小腸で分泌されるホルモンであって、一般に、インスリンの生合成および分泌を促進し、グルカゴン分泌を抑制し、細胞内のグルコース吸収を促進する。グルカゴン前駆体は小腸で3つのペプチド、すなわちグルカゴン、GLP-1およびGLP-2に分解される。ここで、GLP-1はGLP-1(1-37)を意味し、元々インスリン分泌機能のない形態であるが、GLP-1(7-37)の形態でプロセスされて活性型GLP-1(7-37)になる。GLP-1(7-37)アミノ酸配列は、次のとおりである：

GLP-1(7-37)

H A E G T F T S D V S S Y L E G Q A A K E F I A W L V K G R G

